

**鵜住居地区
復興まちづくり協議会・地権者連絡会
議事要旨**

記

■開催日時：平成 30 年 10 月 27 日（土） 13 時 30 分～15 時 46 分

■開催場所：鵜住居地区生活応援センター

■次第

1. 挨拶
2. 本日の趣旨
3. まちづくり計画の進捗状況及びスケジュールについて
4. 住宅再建に係る補助制度について
5. 片岸 8 号線及び（仮称）恋の峠公園線の道路改良事業について
6. 鵜住居地区消防屯所建設事業について
7. 市有地活用事業選定事業者の辞退について
8. 鵜住居地区商業施設の整備について
9. 鵜住居駅前地区公共施設（うのすまい・トモス）の進ちょく状況について
10. 釜石鵜住居復興スタジアム整備とオープニングイベント開催結果について
11. 鵜住居川水門及び片岸海岸防潮堤について
12. 意見交換

意見交換（住民から市への質問と回答）

質問 1

生活再建支援金の加算支援金申請が期限内に間に合わない場合、加算金及び補助金全てが支給対象にならないのか。救済措置はないのか。

回答

県に対して、市から申請期限の延長要望を出しております。今後ともさらなる延長を継続して要望したいと思います。

質問 2

住宅再建後、正式な住所が決定するまでの期間は、どのような住所表記になるのか。

回答

土地区画整理区域内にお引越しをされた場合であれば、換地処分の完了がなされるまでの間は、仮の住所を表示することとなります。

質問 3

住宅を再建した場合、市の住宅再建補助金は当初 100 万円だったが、後に加算された 30 万円も上乘せされるということを皆さんに周知されているのか。

回答

平成 30 年 1 月 1 日号と 8 月 15 日号の広報で、補助金の加算について周知しております。また、補助の対象となる方に個別に電話等で呼びかけもさせていただいております。

質問 4

防犯灯の設置に関する補助金は将来的にも続けていただけるのか。

回答

当面は平成 32 年度まで助成を実施いたします。

質問 5

市道箱崎半島線の凍結対策はどのように考えているのか。

回答

気象状況に合わせてパトロールを実施するほか、峠の前後の歩道に重点的に凍結防止剤を置き、市と除雪作業の委託業者とで、散布の対応も重点的に実施したいと考えております。

質問 6

鵜住居地区の国道 45 号から電柱がなくなるのはいつごろなのか。

回答

およそ 1 年もしくは 2 年以内には、電線等が地中に収容されて電柱も撤去されるのではないかと考えております。ただし、寺前交差点と釜石北インター付近に関しては来年のワールドカップ前までの終了を目標に進めております。

質問 7

町内のごみ置き場はどこに配置するのか。そういった整備は進んでいるのか。

回答

新田、神ノ沢地区に 4 台のうち 3 台、新川原地区が 7 台のうち 6 台設置しており、11 月中にはもう 1 台ずつを設置する予定で進めております。鵜住居町内会地区につきましては、8 台を設置する予定で、そのうち 4 台設置済み、残り 4 台は設置場所が決まり次第速やかに進めていこうと考えております。

質問 8

ごみ箱は、最初は住宅のあるところに置いてもらい、徐々に動かすなど現場を見て対応してほしい。

回答

町内会の役員会で設置場所についてご協議いただくということで、それが決まり次第、現場を確認させていただきながら設置に向けて進めてまいりたいと考えております。

質問 9

釜石鶴住居復興スタジアム（以下、「スタジアム」と言う。）付近の避難の想定はどうなっているのか。

回答

普段の避難路は鎧坂橋を渡って学校方面、もう一方は恋の峠方面の2方面での避難を想定しております。更に、非常の際はスタジアム裏の森林作業道を避難路として活用できるよう検討しております。

質問 10

スタジアム裏の避難路はどこに通じる道路になるのか。

回答

森林作業道ですので、箱崎半島線にはすっかり接続になっておりませんが、箱崎半島線の近くまで整備が進んでおり、そちらから箱崎半島線のほうに歩いて渡れるよう、現在考えております。

質問 11

現在、スタジアム裏の避難路の途中が崩れているが知っているか。

回答

前回の雨等のときに一部崩れたという話は承知しておりますので、今後ワールドカップ開催時等には事前に安全等を確認した上で、利用について検討していきたいと考えています。

質問 12

図面に表記できるような形で避難路を知らしめる方法というのはないのか。

回答

スタジアムには避難路ということで、鎧坂橋を渡って学校方面、もう一方は恋の峠方面の2方向を表示しております。

質問 13

どこからどこまでが避難路としてあてにしているのかをはっきり表示しておいたほうが皆さん情報を得やすいのではないかと。

回答

スタジアムの仮設席の整備等とあわせて、避難の方法や避難路についても分かりやすく周知してまいりたいと思います。

質問 14

原子力廃棄物に関する説明会が釜石を含め全国 7 ヶ所で行われているということについて市長の気持ちをお聞きしたい。

回答

釜石市としては原子力発電、あるいは放射能に関する全てのものについて受け入れもしないし、そういった賛成もしないということを再三申し上げております。

今後もそういった話があっても受付もしませんし、そういう話の場にも出席する気持ちも全くございません。

質問 15

長内川で、今までの大水により土砂が堆積した箇所が随分見られるので、そこをぜひ除去してもらいたい。

回答

河川管理者(県)が状況を見ながら、鶴住居川も含めて定期的に河道掘削を実施する予定となっております。

【佐々木会長代理】

質問ではなく、案としてちょっと皆さんにご案内しておきたいことがございます。といいますのは、この間 8.19 にラグビーワールドカップの釜石鶴住居復興スタジアムのオープニングイベント、盛大にびっくりするぐらいうまく行われたわけですが、私も見させていただきました。

ちょっと違和感を感じたことがあります。というのは、すばらしいイベントでよかった、よかったというのはいいのですが、ここの場所はただのスタジアムではなくて、震災の記

憶と防災の知識を体感、体験できるというものもこの整備の方針に入っているはずですが、それが足りない感じが非常にしました。例えば具体的には記念碑だったり、あとはここでこういうことがあったのだよ、こういうふう子供たちは避難したのだよという現場だと、まさしく子供たちが逃げた現場だと、犠牲者も出た現場だということの案内が足りなくて、ラグビーの試合だけで盛り上がり過ぎてよかった、よかったで終わってしまったような感じがしているのが、ちょっと心に引っかかりました。それについて、この鶴住居の復興スタジアムの中にできれば記念碑を建立したいと。市の土地ですので、当然勝手に建てることはできません。この記念碑に関して、私たちまちづくり協議会の理事会のほうで事前に話し合いました。了解も得ました。どういうふうな了解を得たかということをご皆さんにお知らせします。

まず1番、東日本大震災からの復興と新しいまちづくりの象徴でもある釜石鶴住居復興スタジアムがある旧鶴住居小学校跡地に震災の記憶と教訓を忘れず、未来の命を守るための記念碑などを設置すること。

2番は、その設置費用については、寄附金などを活用するものとし、また設置場所についてはスタジアム内の市有地を無償で貸与するように市に要望しますということ。

もう一つは、避難誘導に係る看板などを増設し、迅速な避難を確実にできるように、大きなイベントがあってもと。看板なども全然足りませんし、ここが旧小学校、中学校があった場所だという案内も全然足りなくて、ここにスタジアムをつくった意義、ワールドカップが何で釜石に持ってこれたのかということを考えれば、釜石だからということではなく、鶴住居のこの場所にスタジアムをつくりたいということがあったから、世界の偉い人、選考する人が選んでくれたと。例えば松倉グラウンドのところにはスタジアムをつくりたいと言っても、恐らく通らないでしょう、釜石イコールラグビーといっても。

それが、今回のイベントですごく引っかかったところで、ぜひとも今言った3つ、この寄附金等を利用するというのは、寄附金に関してはめどがついておりますので、今から皆さまにお願いするということをごさいます。寄附をしてくれる方がいて、それはめどが立っております。これは、皆さんの総意として、鶴住居住民の考えとして、こういう場所にこういう記念碑をしっかり立てて、来た人にここから子供たちは逃げたんだということを世界の人たちに知っていただくため、来年ラグビーワールドカップを開催するに当り記念碑というものが非常に必要だと考えますので、皆様のご賛同を得たいと思います。

今のことを市のほうに改めて、この鶴住居住民の総意だということで、しっかり未来の命を守りましょう、ここに訪れた人に何か心に残るようなものをしっかりつくって、何か感じてもらえるものをつくりましょうと訴えていきたいと思っております。

ちょっと長々となりましたけれども、これが今日私がぜひとも皆様にご了解していただ

きたいことでした。本当にありがとうございます。以上でございます。

【野田市長閉会挨拶】

今日は本当に長時間にわたりまして説明やら、あるいはさまざまなお意見をいただきました。本当にありがとうございました。

まず1つは、支援金の話がありましたけれども、大体役所のほうでは税金などの徴収金については、どこに住んでいても督促状を出すわけですけれども、もらえるお金があるときのほとんどは申請主義といいまして、自分から役所に届けないともらえないのです。税金だけはどこに行ってもちゃんと請求来ますけれどもね。

この申請主義は役所の一番の欠点なのですが、一応そういう形になっていますから、役所としては広報とかでお知らせしていますよというのが一定のやり方なので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。加算支援金は、家を建てたり、あるいは修理したいという方がもらえるわけですが、その前に、被災した方が必ずもらえる基礎支援金をもらわないといけないのです。

その基礎支援金の手続をまだしていない人も実はいるのではないかとということで、市のほうで調査をして声かけをしております。そうしたら、やはり何人か該当者がおりました。したがって、まず一つは基礎支援金の手続をまだしていない方がおられたならば、早く手続してくださいと。そこで初めて、その方が該当者であるということが分かりますから、先ほどの加算支援金の話も次の展開としてできるということでございます。加算支援金の未申請については、ほとんどが行政の責任だと思います。例えば宅地ができないからとか、いろんな環境が整わないので家が建てられないとか、あるいは復興住宅に入れないという方々だと思いますので、それは期限が来ても市のほうでちゃんと責任を持って期限を延ばしますから。加算支援金はいいいのですが、基礎支援金だけはちゃんと手続をしてももらわないと、期限が切れてしまいます。基礎支援金の期限は国の方で設けるものになりますので、期限が来ましたら、支給が終わりますよという話はさせていただきます。加算支援金の期限はその後の話になると思いますので、まず一つ今日は基礎支援金の手続をまだしていない方がおられましたら、よろしくお願ひしたいということを申し上げたいと思います。

それから、先ほど出たごみ箱の話とか街路灯とか、まさにこれからは家を建てた後の周辺環境が課題になってくると思います。これは先ほど会長さんからご指摘がありましたけれども、役所のほうは分かりました、分かりましたと返事をして現実問題としてなかなか分かっていないところがありますから、直に声をかけていただかないと気がつかないところがあります。ぜひ町内会のほうと連携しながら、皆さんの不便にならないように行

政としても対応したいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。特に防犯灯については、家がまだ建ち並んでいない中で、あるいはまた町内会の会員も定まっていない中で、補助があるとはいえ何基立てなければならないかということの中で、町内会として負担できない部分も出てくるのではないかなというところを危惧しています。町内会によって被害の程度など事情が違うわけですし、一概には言えないのですが、その辺はやはり行政としてもいろいろ考えていかなければならない部分であろうと思いますので、これについては町内会のほうといろいろ連携しながら取り組ませていただきたいと思います。

それから、最後の話でございましたけれども、鶴住居スタジアムが特別な場所であるという話でございました。今日は皆さんの了解をいただいたということでございますから、市としてはぜひ皆さんのお気持ちを大切にしながら、まずは記念碑の建立と、それからいわゆる避難看板とか、そういったさまざまところで周知が足りない部分がたくさんあります。今日はその点のご指摘もございましたので、こちらのほうも町内会の皆さんと相談しながら必要なところに必要なものを建設していくという進め方で取り組んでいきたいと思っております。特に、自主防災組織をぜひ早くつくっていただきまして、防災士の資格を取った方々もたくさんおられますので、そういった方々のご意見あるいはご指摘も頂戴しながら、ものだけではなくそこに住んでいる人たちの取り組みが、やはり世界に発信していく部分もあるのだらうと思っております。記念碑も大事でございますが、そこに住んでいる方々がこういう取り組みをしているのだよということを、まさに世界に発信する、鶴住居はある意味でモデルになっているのだらうと思っておりますので、そのためにも自主防災組織をきちんと立ち上げて、住民の皆さんの意識を一つにしていいただければありがたいなと思っております。

その中で一番の課題が、先ほどお話が出ましたスタジアムの裏山の作業道のことでございますが、これは今は避難路ではないのです。現時点では、鎧坂から学校のほうに向かっていく市道が避難路でございまして、ただ、いざというときに避難路として活用ができるかもしれないという、その可能性について話をしているわけでございます。役所としては、いろいろな情報を出したいと思って話をしているわけですが、そこで誤解されるところがあると思っております。ですから、もう一回繰り返しますが、現時点ではあそこは避難路ではありません。森林組合がつくった林業の作業道でございまして、スタジアムにいる方々には、鎧坂を通して、そして学校のほうに逃げていくという一定の通路がありますから、それが避難路であるということで、現時点ではぜひご理解をお願いしたいと思います。

ただ、スタジアムから学校まで行くのにコンサルの皆さんがいろいろと調査をしたらやはり30分かかるのです。最大限1万6,000人の方々、1万6,000人というのは座席のある

方々が1万6,000人ですから、そうでない、例えば誘導をしている方とか売店でお手伝いしている方とか、ボランティアとか、そんな方々を入れたら多分2万人ぐらいになるかと思うのですが、その方々がどれくらいの時間で逃げられるのかというと、計算上は30分かかるのです。ただ、最後の人が30分で逃げられるのかというところは、少し私も疑問に思います。何で30分なのかというと、東日本大震災のときが大体30分だからという話なのです。だから、もしかしたら20分で津波が来るかもしれないのですが、太平洋沖のほうは大体30分程度の時間を想定しているのです。今度来るであろう東海、東南海のほうの地震による津波は、場所によっては5分とか10分とか、3分という予測もありました。しかも、みなさん都会ですから、裏に山があるとかそういう場所ではないのです。ああいう地域は本当に大変だと思いますが、少なくともこちらのほうは地震発生から津波到達までの時間が比較的長いということで、十分避難できる時間はあるとは思っています。それにしても20分とか30分の話ですから、今お話しした避難路でみんなが安全に避難できるかというところ、少し疑問が残ります。したがって、いざというときは避難路関係なく、とにかく自分の命を守るために近くの高台に逃げなくてはいけないのだということで、裏山もその一つの手段であるという話をしているのです。そのためには、常に逃げられるような環境をつくりていかなければなりません。先ほど裏山の作業道の一部が崩れているという話もありましたけれども、できるだけ常日頃から管理をして、いつでも逃げられるような場所にしておくということは必要なことだと思いますが、現時点ではあのスタジアム裏の作業道は市のものではないので、勝手に人の山のことを避難路と言っていることになります。人の山のことを作業道だの避難路と言っているのは問題であると言っているのですけれども、これは後で山主さんにちゃんと承諾をいただいて、いざというときには避難路として使うときもあるかもしれません、よろしく願いますということをしているわけです。皆さん了解しているという話は聞いていますが、きちんとまだ確約できていません。森林組合さんがそういう話をして了解をしているという話は聞いていますが、市としてきちんと話を聞いているわけではないので、改めて山の所有者の皆さんと相談しながら、いざというときにはそういう可能性についてもご承諾をいただく。そのためには、人の山ではございますけれども、市のほうで少しお金をかけて何か崩れたりしているときは直すことも必要なかもしれません。そうしますと、今度は議会のほうの予算の議決も必要になってきますから、簡単にいかないのです。いろいろと課題はたくさんございますが、それでも逃げる箇所を、逃げる道をいっぱい用意しておくということは大事なことだと思いますので、そういった意味で、今日この作業道の話をしているということをぜひご理解ください。

宮城県の大川小学校というところでたくさんの子供たちが犠牲になりましたが、あれは裏山に逃げればみんな助かったのとおっしゃっているのです。すぐ近くに山がある。ス

タジアムだってそうですよね。ちょっと上れば山があるのです。立派な安全な山があります。ということを見ると、我々としてもあの山への避難について何とか道筋をつけるということは必要ではないかなと思っております。

それも含めまして、先ほどの記念碑のこと、それから看板類の話、まだまだやらなければならないことがたくさんございますので、ぜひ引き続き皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

ちょっと話が長くなりましたが、昨日はポール・コステロというファッションデザイナーの方が釜石に来てファッションショーをやったのです。高校生を含む地元の方もたくさん出て、すごかったです。虎舞とか、佐野よりこさんの歌もあったのですが、佐野よりこさんの民謡のバックが実は三味線とかではなくてオーケストラでした。虎舞もオーケストラでしたり、今までにない雰囲気ですごく芸術的な、もしかしたら世界でやっても遜色のない、常日頃見ているもの、聞いているものが実はとんでもない宝物になる可能性もあるなということを感じたわけでございます。いずれ、アイルランドの方々も来年釜石に来るという話も聞いています。この間は、フランスのディーニュ・レ・バン市という姉妹都市があるのですが、そこに行ってきました。ディーニュ・レ・バン市とはずっと前から姉妹都市の協定を結んでいまして、向こうからはたくさん来ていただいていたのですが、釜石の市長という立場で向こうへ行くのは初めてだったのです。これを言えばまた話が長くなりますけれども、ディーニュ・レ・バン市ではラグビーが盛んでないと思っていたのですが、実はとんでもなくラグビーが盛んだったのです。この間のアマチュアの6カ国大会をディーニュ・レ・バン市でやると。来年は日本でワールドカップがありますが、その4年後は今度フランスなのです。2023年はフランス大会なのです。だから、来年はフランスの人たちも日本に見に来ます。当然ディーニュ・レ・バン市の方も来るという話をしていたのですが、2023年はディーニュ・レ・バン市でラグビーの世界大会をやるのがディーニュ・レ・バン市の目標です、とみんな今頑張っていました。

さらに、昨日、一昨日はオーストラリアとニュージーランドの大使館、それから向こうのほうの商工会議所の方々がいらっしゃいました。釜石ではオーストラリアもニュージーランドも試合が予定されていないのに、です。オーストラリアとニュージーランドはラグビー強豪国ですから、大分とか大きなスタジアムでの試合が多いのですが、何とわざわざ釜石のために、オーストラリアとニュージーランドから200万円寄附していただきました。釜石だけです。実際の試合会場ではない釜石を応援するためということで、ダン・カーターとか、リッチー・マコウといった、ニュージーランドとオーストラリアの選手の皆さんも何回も来ています。スタジアムに来て、雨が降っているのにあの人たちが来たら急に雨が晴れたということが2回続いたこともありました。そういった奇跡も非常に印象深かつ

たのですけれども、いずれ何を言いたいかといいますと、来年のラグビーワールドカップは世界中からたくさんの方が来るし、今でも実は8.19のイベント以降毎日7カ所、8カ所のいろんな団体がスタジアムを見学に来ています。あのスタジアムにわざわざ来るわけです。ありがたい話です。

全国から見れば鶴住居のスタジアムが一番小さいのですよ。6,000席規模のスタジアムなんていうのは全国にいっぱいあるのです、たまたま岩手県の三陸にないだけであって。全国的に見ればどこにでもあるものなのですが、やはり青空と、海の香りと、あの山に囲まれた自然、そして清々しい風の中で芝生があって、という環境がないのです。ないらしいです、世界に。半分はリップサービスかもしれませんが、来る方がみんなそう言うてくれるのです。それはなぜかという、震災後は学校の跡地だったこの場所に、地域のみんなの支えを受けてここまで立派なスタジアムができましたよと。これからは、ここからいろんなことを世界中に発信していくのですよ、という物語があるからなのです。これをみんな見に来るのです。

来年、もちろん成功に向けて頑張らなくてはならないのですが、その後も多分たくさんの方がおいでになるように今からいろんな方々に声をかけています。だからわざわざ私もフランスをはじめいろんなところに行っているのです。こうしてつくったつながりは、必ずや実りになると思いますし、そうなるようにしたいと思っています。皆さんお一人おひとりも、知り合いの方々にぜひ声をかけていただいて、釜石のほうにも来ていただければと思っています。

本当に長くなりましたが、来年の試合のチケットは私もまだ手に入れていません。何回申し込んでも外れておりますが、来年のラグビーワールドカップは地域のためにやるのだということでございますから、地域の皆さんが見ないとだめですので、ぜひ早目にチケットを購入していただければありがたいなと思っています。

そしてまた、被災された皆さんがきちんと再建を果たさなければ、ラグビーワールドカップをやった意味がないわけですから、そのためにも今日いろいろと説明をしたわけでございますけれども、このスケジュールをきちんと守って、一人ひとりが復興を成し遂げて、そしてラグビーを楽しんで見られるように、我々としても頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で今日の閉会の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。